

文教厚生委員会 行政視察報告書

令和5年11月14日

狭山市議会議長
三浦 和也 様

文教厚生委員会
委員長 千葉 良秋

当委員会は、下記のとおり、愛知県安城市、静岡県浜松市及び愛知県岡崎市を視察して参りましたので、その概要について報告します。

記

日 程 令和5年10月30日（月）～10月31日（火）

視察事項

- 1 安城市 ケンサチeフェス事業について
- 2 浜松市 水泳場運営維持管理事業について
- 3 岡崎市 校内フリースクールについて

参加者 千葉 良秋 船川 秀子 内藤 光雄 笹本 英輔
金子 広和 大沢えみ子 丸橋 ユキ

同行者 吉村 憲 健康推進部次長

随行者 佐藤 宏毅 担当書記

愛知県安城市

[市制施行] 昭和 27 年 5 月 5 日

[人 口] 190,143 人

[面 積] 86.05 km²

[概 況] 県のほぼ中央に位置。明治用水の完成により農業や畜産が発展し、当時は農業先進都市として「日本デンマーク」と呼ばれた。市域の4割以上は耕地で、農業は稲作のほか野菜、花き、畜産などの都市近郊型の多角経営が行われている。名古屋市通勤圏として都市化が進行。近年は、豊田市と衣浦臨海工業地域に近い立地から自動車関連企業が進出し工業化も進む。

【視察項目】

ケンサチ e フェス事業について



【視察内容】

ケンサチ e フェス事業について

●ケンサチとは

「市民1人1人が生活の豊かさとともに、幸せを実感できるまち」との目標を叶えるため、「健やか」と「幸せ」をつないでいく安城の健幸なまちづくりプロジェクトのこと。

●ケンサチ e フェス開催の経緯

令和4年の市制施行70周年記念事業の一つとして、ユニバーサルスポーツであり、コロナ禍でも実施可能なオンラインでできるものとして「eスポーツ等デジタルコンテンツ」に着目。社会課題解決に向けて活用し、それを市内外に発信することでシティプロモーションにつなげるプロジェクトとして「ケンサチ e フェス」を令和3年度からスタートさせた。

令和4年度には、実行委員会（産官学連携）を組成。全世代に向けてのイベント等を開催。

●財源

令和4年度の事業費内訳は、一般財源から47.5%、デジタル田園都市国家構想交付金から49.7%。

●高齢者のケンサチに e スポーツを活用

⇒【太鼓の達人】を利用した介護予防・世代間交流

①市の社会課題として、人口減少が進み、高齢者の割合が2050年には30%を超える超高齢社会が到来すると予測。

②高齢者の介護予防に向けた対策として、今までも様々な事業を行ってきた中

で、新規参加者の獲得、世代間交流、オンライン実施が可能なものとして e スポーツ「太鼓の達人」を活用することに。

③「太鼓の達人」の選定理由

操作がシンプル、パチをたたくことで脳の活性化とともに運動促進にもつながる、若年層にも人気のため世代間交流も可能、対戦を通じた交流により社会的つながりの構築が期待できる。

④ステップを分けて高齢者向け e スポーツイベントの開催

(1) e スポーツを知る・楽しむ

市内 8 福祉センターで体験教室の開催

→ 1 カ所あたり 10~20 人、8 会場で約 100 名参加。

老人クラブ・福祉団体・福祉センター利用者への声かけ、SNS 等で募集。

(2) e スポーツを体験する・練習する

市内 8 福祉センターに e スポーツ機材を常設

→ 体験教室後、交流会参加者は各自練習。

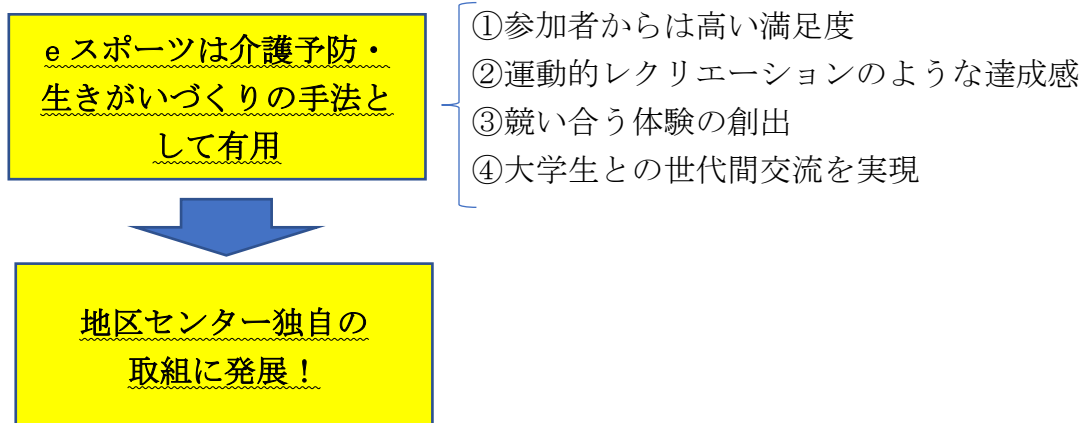
参加者以外も e スポーツを自由に体験。

(3) e スポーツで競い合う

各地区代表による e スポーツ交流会開催

→ 市内 3 福祉センターをオンラインで繋ぎ、トーナメント大会を実施。

● イベントを開催した効果



● 令和 5 年度の取組

① 町内会と連携した世代間交流イベントの実施

② シルバーカレッジ受講生を対象としたフレイル予防講座・e スポーツ体験会の実施

● 今後の課題

① 自立自走できる仕組み作り

→ 地域の担い手づくり、人的・資金面の問題。

- ② 課題解決ととっつきやすさのバランス
→デジタルは難しくないと思わせること。
- ③ 事業実施のための財源確保
→現在は国の交付金のため、安定した予算確保の検討。
- ④ 効果検証
→どこまでシティプロモーションにつながっているのか。
フレイル予防の医学的エビデンス等。

【主な質疑】

Q：高齢化率が21%ということだが、今回健康長寿のために進めていくことになった経過は？（狭山市は30%を超えている）

A：全国平均からするとまだ低い方だが、高齢者に向けて新しいアプローチはないかを念頭に、市制70周年記念事業として新しい取組をした。

Q：「太鼓の達人」にするきっかけは何か？

A：他の自治体ですでに導入している事例を参考にした。また、太鼓ならアナログっぽくなじみやすいと考えた。

Q：令和4年度の予算総額、執行額は？

A：予算は約4000万円、執行額は約3900万円。

Q：入札で事業者を決定したのか。

A：公募型プロポーザルで、8社からの応募があり、実行委員会がケーブルテレビの会社に委託することを決定した。

Q：これからの予算は？

A：令和5年度は680万円。令和6年度も予算要求していく。

Q：オンラインで参加できるよう、自宅につながるための補助金等の検討は？

A：今のところ補助金等はない。今後もしのようになれば継続していけるのかを検討していく。寄り添った支援、伴奏型支援という意味でも、積極的に市がきっかけを作り、触れていただく機会を醸成していきたい。

Q：世代間交流について継続は？

A：イベントの時は交流ができたが、きっかけ作りになったという段階なので、今後については検討していく。

Q：スマートフォンを使用して、このような活動に取り組んでいくという検討は？

A：スマートフォンを使つての活動も検討したが、イベントとして行っていくということを考えると、新しいものに取り組むほうが良いのではないかとということになった。

Q：学校教育との連携は？

A：ゲームという認識があり、どうしてもそのハードルが高いため、連携まで

には至っていない。

Q：介護予防、フレイル予防について大学からのアドバイスや今後を見据えての高齢者福祉部門との連携は？

A：大学からは社会課題解決についての取り組みについてのアドバイスであるため、介護予防という観点からではない。また今回の取組は医学的なエビデンスを立証することを目的とはしておらず、この事業をきっかけにして社会的なつながりをつけることがフレイル予防につながっていくと考える。エビデンスの立証は、市としてこの事業を大きく進めていくとなった場合等に、研究機関と連携して、ゲームをしているときの脳波測定や体のバイタルチェックを並行して取り組みたいと考えている。高齢者福祉部門との連携は依頼しており、事業の意味や拡大範囲等を検討していくことは今後の課題の一つとなっている。

Q：今回の取組について苦労した点は？

A：社会課題の解決のための目的設定が大変だった。また、事業実施に当たっては参加者を集めることが大変だった。町内会や老人クラブなどにおんいし集めていただいた。



説明内容に対する質疑応答



議会棟前にて

静岡県浜松市

[市制施行] 明治 44 年 7 月 1 日

[人 口] 799,966 人

[面 積] 1558.06 km²

[概 況]

県の西部に位置し、面積、可住地面積とも全国 2 位の広域な市域を持つ。古くから繊維産業で栄え、近年は輸送用機器楽器を中心に発展した製造業のまちで、スズキや三大楽器メーカーが本社を構える。都市近郊農業が営まれており、農業産出額は全国 7 位で、ミカン是全国 1 位。湖西市との間に浜名湖が広がり、ここでウナギ養殖方法が確立された。

【視察項目】

浜松市総合水泳場運営維持管理事業について

【視察内容】

●施設の概要

国際公認プールを有する施設であり、浜松市西部清掃工場に隣接している。

敷地面積約 3.5 ヘクタール。延べ床面積約 17,700 m²。鉄筋コンクリート造一部鉄骨造。地下 1 階地上 2 階建。

- ・メインプール 50m×10 コース（国際公認 8 コース）
可動床により 25m×9 コース×2 面の短水路に使用可能となる。
- ・飛び込みプール 25m×25m（国際公認）
- ・サブプール 25m×8 コース（国際公認 8 コース）
- ・その他、屋内外レジャープール、子どもプール、風呂、サウナなど。
- ・トレーニングジム・スタジオ、歴史資料室（古橋廣之進氏の資料）

●水泳場の実績

平成 21 年にオープンし、日本選手権水泳競技大会や全国少年少女水泳競技大会（とびうお杯として、毎年開催）、競泳日本代表や世界選手権、オリンピック・パラリンピックの事前合宿にも使用されている。

利用者数は、2016 年度には年間 20 万人を突破。

利用料金収入は 1.4 億円まで増加したのち横ばい。

新型コロナで一時減少したが、現在は回復傾向にある。

●第 1 期事業（DBO 方式による施設整備）の概要

○事業目的

北部清掃工場の老朽化や平和最終処分場の延命化を背景として、浜松市西部

清掃工場を整備するとともに、江之島水泳場の老朽化や公認規則との不整合に伴い、清掃工場の余熱を活用した古橋廣之進記念浜松市総合水泳場と併せて、本市初のPFI手法（DBO方式）により整備した。

○事業スケジュール

整備期間 平成17年5月31日～平成21年1月31日

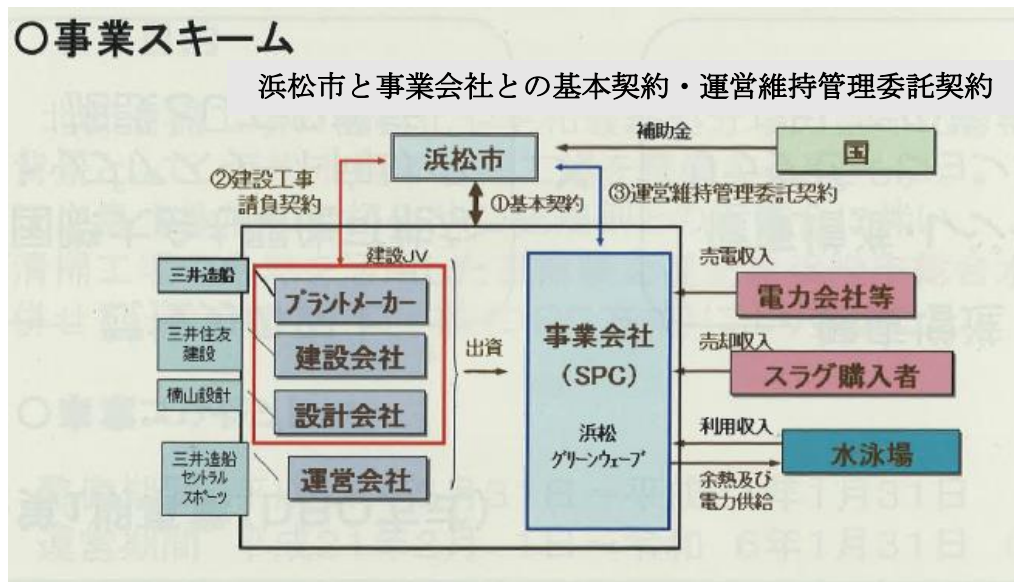
運営期間 平成21年2月1日～令和6年1月31日（15年間）

○事業コンセプト

①競技力の向上→国際大会も開催可能なトップアスリート向けの施設としての機能

②健康増進→健康増進・レジャー・リラクゼーションエリアとしての機能
この二つの機能を併せ持つ、新しいタイプの水泳場として整備

○事業スキーム



○課題

- ・施設・設備の老朽化や利用ニーズの変化
→修繕改修費の予算確保及び発注処理等が多数発生
- ・水泳事業単体の事業規模が清掃工場の2分の1程度
→一体事業では水泳場単体の競争性の確保が困難
- ・利用収入は総支出の半額以下となっており、サービス購入料で賄っている。
→利用収入のみで事業実施することが困難

⇒水泳場単体としてPFI事業（RO方式）を選定

●第2期事業（RO方式）の概要

- ・現況調査（2020年度）：劣化診断、簡易手法検討
- ・民間活力導入可能性調査（2021年度）：サウンディング調査、要求水準整理
- ・アドバイザー業務（2022～23年度）：VFM算定、公募資料作成
- ・PFI等審査委員会設置（2022～23年度）：公募資料審議、事業者選定

●第2期事業者選定について

事業手法：総合評価一般競争入札（WTO政府調達協定対象）

事業方式：RO方式（Rehabilitate Operate）

※改修業務、運営維持管理業務を一括して民間事業者に性能発注する
事業手法

事業期間：令和6年5月1日～令和20年3月31日

スケジュール：令和5年1月26日 実施方針公表

5月16日 入札説明書公表（公告）

11月上旬 落札者決定・公表

12月 基本協定・仮契約締結

令和6年2月下旬 契約締結・指定管理者の指定

●VFMについて

契約上限金額：8,840,919千円（税抜き）

VFM：4.97%（入札公告時）

●今後の予定について

令和6年5月1日 改修工事

令和8年1月4日 リニューアルオープン

●事業スキーム

西部清掃工場 環境部担当

委託契約を予定し、費用は委託料として支出

【委託内容】清掃工場の運営、余熱利用（発電）、水泳場への蒸気・電力供給

総合水泳場 市民部担当

新事業者をPFI方式にて選定し、費用はサービス購入料として支出

【PFI事業契約内容】水泳場の改修、運営・維持管理、自主事業

【市が行う業務内容】事業説明、モニタリング



【主な質疑】

Q：PFI事業RO方式を選定した大きな理由は？

A：第一期はDBO方式だったため、直営として工事ができなかった。今回は清掃工場と水泳場の整備を分け、水泳場単体として事業を行うことになり、国際大会が開催できる施設として考えたときに、そのノウハウが必要となるため、RO方

式を導入した。また、資金調達は市となっており、改修費が 25 億円かかるため、資金の平準化を図るため R O 方式を導入した。さらに、施設の吊り天井は特定天井となっており、平成 14 年の建築基準法の改正により基準不適切となった。その改修工事は発注後約 20 ヶ月かかることが分かっていたため、集中して工事を行う必要があった。

Q：個人の施設利用料は？

A：プールと温浴施設、もしくはトレーニングジムと温浴施設を利用する場合は 770 円。全てを利用する場合は 1,100 円である。

Q：国際大会や合宿などによる利用料が占める割合、一般利用者の利用制限は？

A：国際大会等は年間 50 試合ほどであり、利用料に占める割合は 3 分の 1～半分以下である。大会時でも一般利用ができるように分けられるようになっている。

Q：R O 方式の事業者の目算は？

A：サウンディング調査を 21 年に行っており、国際試合を誘致できるような事業者は 3～4 社ほどであると捉えている。

Q：改修工事中、一般利用者は使えなくなるのか？

A：分けて工事を行う予定でいるため、工事中でも使用可能。ただし、3 ヶ月から半年ほどは完全に休業する予定。市内には 25m プールが他に 6 ヶ所あり、休業期間はそちらの利用を案内する。

Q：ウェルネス事業に取り組んでいるが、高齢者福祉部門との連携は。

A：高齢者福祉部門と連携し、健康増進のために利用券の配布等を行い、ウェルネスプロジェクトのアプリの活用もしている。

Q：今回の事業期間が 14 年の理由は？

A：事業による生産性と効果を鑑み、期間は 10 年以上が必須と考えた。第 1 期は 15 年であり、施設設立後 30 年目に予定されている設備の耐用年数に伴う改修事業を第 2 期に含めてしまうと、事業者側のリスクの管理が非常に難しくなる。そのため 30 年目の設備更新を第 3 期事業として想定し、その 1 年前までの期間として 14 年に設定した。



浜松市議会議場にて

愛知県岡崎市

[市制施行]大正5年7月1日

[人口] 386,252 人

[面積] 387.20 km²

[概況]

県のほぼ中央に位置。徳川家康の生誕地であり、三河武士発祥の地。岡崎城の城下町、宿場町として栄え、戦前は綿紡績を中心とした繊維工業で発展。近年では自動車産業を中心とした輸送機器関連企業が集積する工業都市となる。名古屋市や豊田市のベッドタウンでもあり、人口は増加してきた。石工品や、八帖町が発祥地と言われる八丁味噌が特産品。

【視察項目】

校内フリースクール『F組』について

【視察内容】

●校内フリースクール『F組』の動画視聴

生徒の様子、教室の様子、教員の関わり、支援の関わり等。

●設置経緯

「学校や学級には足を運べない子どもが、どうして民間のフリースクールには通うことができるのか？」と考えたときに、「学校が魅力的ではないから来られないのではないか、学校にフリースクールのようなものがあれば来られるのではないか」という結論に至り、中学校に設置することになった。

段階的に設置することで成果と課題をつないでいくことを目的に、令和2年度に3校、令和3年度に新たに5校、令和4年度に新たに6校、令和5年度には新たに6校設置し、全中学校20校に設置完了した。

『F組』のFには、free、fit、fun、futureの意味が込められている。

タブレット端末も活用し、授業に参加したり、本人のやりたいことをやったりを支援していく。

F組の日課

時間	内容
8:00~9:15	登校・朝の連絡・自習
9:25~12:15	学習・活動 ※各自のペースで自分のレベルに合った学習・活動に取り組みます
12:15~12:50	給食
12:50~13:10	昼放課
13:10~14:30	学習・活動
14:30~14:55	清掃・振り返り・下校準備
15:00	下校

それぞれの状況に応じた登校時間・下校時間となっています。

自分の学年にとらわれず、各自のレベルに合った学習を進めていくことができます。

自主学習

ライブ学習

タブレット学習

●不登校児童生徒の現状

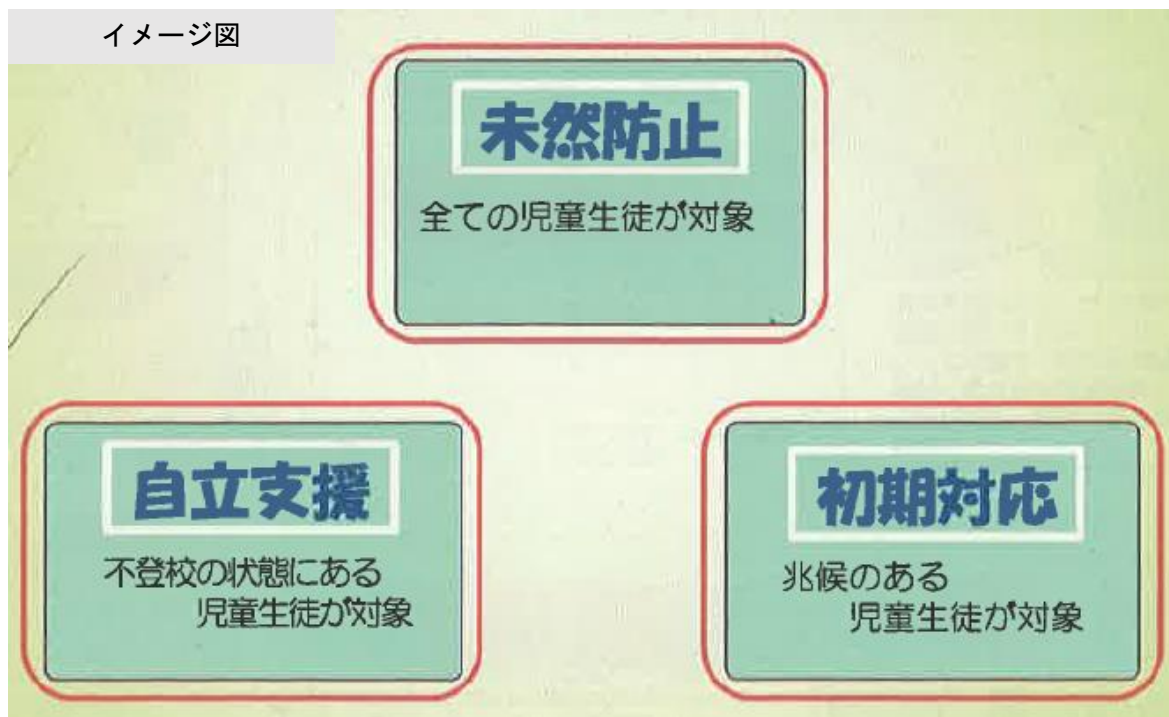
全国的にも年々増加している。本市は、右肩上がりであるが、全国よりは下回っている。

●校内フリースクールの機能

①子どもの居場所→楽しく安心していられる場所

②F組の支援のあり方を全教員が理解していくこと。教員の意識改革が必要となる

イメージ図



●『F組』の理念の浸透

長期欠席者を減少させるカギは、この理念を教員、生徒にも浸透させること。

① 適応するのは子どもではなく学校である

② 多様性を受け入れられる学級

③ いつでも子どもたちを温かく迎える体制

→支援員の配置（会計年度任用職員）、居心地の良い教室環境作り

④ 通常学級と同じ1つの学級として扱う →担任を定数内で配置

⑤ 教室復帰ではなく社会的自立を目指す

※このような体制をとることで、心理的安全性の担保となり、全学級に浸透し、安心できる場所にしていく。

※ミドルリーダーを担任にすることで、その人発信で他の教員にも広めることができる。

●魅力ある学校づくり

F組が各学級のトップランナーになることで、すべての学級の改革を図る

- ①多様性を受け入れる「授業づくり」
- ②多様性を受け入れる「居場所づくり」
- ③多様性を受け入れる「絆づくり」

をすることで

在籍学級へ波及

●成果

- ①新規長期欠席児童生徒数の増加率抑制
- ②教職員の意識改革による在籍学級の支援や指導の態勢の変化
- ③市の教育センターと在籍学級との段差軽減
市の教育センター⇔F組⇔在籍学級を併用する生徒の増加

【主な質疑】

Q：現在ひきこもりをしている生徒への周知方法は？

A：まず校長が入学式等で伝え、文書を配布。担任による家庭訪問や、連携しているスクールソーシャルワーカーや医療機関からも伝えてもらっている。

Q：通常学級にいる生徒たちはF組をどのように思っているのか？また交流する機会はあるのか？

A：F組の子たちは何か困り感があるのだろうと感じている印象である。体育祭などで交流したりはするが交流の内容や関わり方は本人が決める。F組は特別な部屋ではなく、誰が来ても良いクラスであり、そこにいくことが落ちるというイメージもない。

Q：費用について、教員、支援員の人件費等の内訳は？

A：支援員は会計年度任用職員のため、毎年予算を確保している。担任は定数内の教員なので特別な費用はかからない。教室の備品等の準備費用はかかっている。

Q：F組の生徒の学籍簿は？

A：学籍は通常学級にある。F組や教育支援センターに登校した場合も出席扱いとなり、オンラインで出欠状況もわかるようになっている。

Q：教員の確保や人材の育成についてどのようにしているのか。

A：校長が教員に理念を伝えている。キャリアに応じた研修を行い、不登校についての研修の時間を多く設けている。

Q：通常学級の生徒が、今日はF組に行きたいということが出来るのか？

A：まず担任が、生徒に困り感があれば話を聞く。困ったときにSOSを出せるような状況を学校が作っている。毎日F組に通うとなると、保護者にも相談をし、了解を得ている。

Q：F組は1～3年生の縦割りだが、弊害は？

A：全くない。基本的にトラブルが起きるのは同じ学年であるので、縦割りのクラ

スにすることでプラスになっている。

Q：学習支援のあり方は？

A：自主的に勉強するのが基本。担任が教えることもあれば、空いている先生が教えに来たりしている。登下校についても本人の自由であり、生徒のペースに応じて時間割を組んでいる学校もある。

Q：立ち上げ時の苦労は？

A：F組に力のある先生を置くことはできないと言われたこともある。また県教委に予算的にも指導的にも要求はしていない。今は逆に県から取り組みを教えてほしいと言われている。

Q：F組の生徒の進路は？

A：全日制、通信制、定時制の高校、専修学校に進学している。



岡崎市の所管課から説明を受ける



岡崎市議会議場にて